



会長挨拶
研究校紹介（豊橋支部）
私の研究（西尾支部）
学校自慢（豊川支部・岡崎支部）
支部トピックス（蒲郡支部・幸田支部）
教室の窓から（田原支部）
私のコレクション（碧南支部）
定期総会・教育講演会
部会・委員会だより
教育随想





流行・流儀を超越した 地道な教育実践を

三河教育研究会 会長 高 須 亮 平

青葉に風薫る五月十日、蒲郡市民会館において、多くの来賓のご臨席のもと、令和元年度三河教育研究会定期総会を盛會裏に終えることができ、会員の皆様には心から厚くお礼申し上げます。

三河教育研究会は、昭和三十六年五月に発足し、今年で五十九年目となります。その間、三河小中学校長会、愛知教育文化振興会との連携のもと、多くの先輩方のたゆまぬ努力によって確かな実績と伝統が築かれ、今日まで引き継がれてきました。そして、令和の時代となり、新学習指導要領が完全実施されていきます。

現在、そのような中、私たちの教育研究はいかにあるべきかを考えていかなければなりません。これまでを振り返りますと、様々なやりすたりがあり、その流行、流儀の中で、教育は慌ただしく変遷をしてきました。最近では「主体的・対話的で深い学び」という言葉が話題となっています。この意味は「一人一人の子どもを大切にすること」に通じ、

教育の本質に迫るものを感じさせます。

それは時に言葉としては美しく安易そう、教育研究には聞こえのよいように感じます。しかし、現在、それらの言葉に見合う実践が教室を満たしているかと言いますと、そう甘くはありません。真の理解と実践には、教師の意識改革が求められるからです。けれども、これまでの三河の先輩方が、教師の営みとしての具体的に丁寧な教育をしてくれています。

「子どもが帰った教室で、今日はこの子はどのようにしていたか、何をしてやれたかを考えてみなさい」と。

教師が一日の子どもの姿を思い浮かべること、見過ごしてきたその子の真意を感じる事ができます。そして、今日の指導の何が問題で、翌日からどう改めればよいかが自ずと見え始めてきます。

「新聞や教育書を丁寧に読み、子どもが興味を持ち、授業に役立てられる教材ノートを作ってみなさい」と。

する上で子どもに魅力的な教材を選定できます。そして、そのような教材に支えられた実践により、授業で子どもを育てるという当然の事実に気付きます。

「自分の授業を録音して授業記録として起こし、それを繰り返し読むことを続けてみなさい」と。

授業記録を読むことで、指示や説明が多く分かりにくかったことや、子どもの意図を誤解し、教師の都合で授業をしていたことに気付きます。そのことで、謙虚な気持ちで子どもに寄り添う授業ができます。

これらは、まさに子ども一人一人を大切に「主体的・対話的で深い学び」とつながる教師の営みです。ただ、それらを毎日のように行うことは難しいかもしれせん。作業に要する時間は相当かかります。しかし、その気になれば特別なセンスはいらないので誰でも始められますし、始めた者はきつと確かな力を付けられるでしょう。それは当然で、それが教

育研究の根本だからです。だから、私たち教師には、本質を見極める眼力、自らの実践を貫く主体としての軸、ひたすら子どもを育て教育を生み出す創意をしっかりともっていないならなりません。

このように考えますと、今の教育研究に求められることは、美しい言葉で飾り立てることも、はやりやすさなどのような流行、流儀を追うことでもありません。それらを超越した、あくまで子どもに誠実で、地道な教育実践を、継続していくことなのです。それが三河教育の本質だと思ふのです。

登山の目標は、山頂と決まっています。しかし、教育の面白さはその山頂にはなく、かえって逆境の山の中腹にあるのかもしれない。すなわち、私たちは、授業の中で子どもの姿と向き合う、その瞬間瞬間を大切に、それが連続する今を、辛くとも楽しみながら、教育実践を積み上げていきたいと思ふます。

三河教育研究会は、三河全小中学校の約一万二千の先生方が自ら進んで研修を積み組織です。私たちは、本会発足当時の「三河のすべての子どもたちに、三河の教師による、優れた教育を保証する」という先輩方の熱き思いを次代へとつなげる中で、さらなる充実・発展を図っていかねばなりません。そのために、私たち会員一同が教師としての主体性と創造性を発揮した教育研究を、力強く展開していきたいものです。

令和元年度のこの一年、力を合わせて教育研究に取り組んでいきましょう。

校紹介 研究紹介

認め合い、かわり合いながら、
仲間とともに成長する生徒の育成
「この子」がいきる生徒指導を通して

豊橋市立本郷中学校

今の生徒たちが社会で活躍する頃にはグローバル化や技術革新が進み、複雑で予測が難しい時代を迎えると言われていきます。本校では、未来を生き抜く力を育むため、教師が生徒一人一人、つまり「この子」を大切に、活躍の場をつくることで自信をもたせること、相手とかわる力を育てることが必要だと考えています。「自他をかけがえないもの」ととらえ、学校生活の中で自分のよさを発揮し、互いのよさを認め、仲間とともに成長する生徒」を目指し、「聴く」ことを基盤として生徒指導の研究を進めています。



学級活動

「合唱コンクールで最優秀賞をとるためには」

○研究の概要

「聴く」ことをすべての基盤としています。「聴く」とは相手の考えや気持ちをわかるう、知ろうと、他者の心のうちを理解しようと努めること、その上で、教師の生徒理解をもとに、「この子」がいきる人間関係づくりをすること、「この子」をいかし仲間とともに成長する場面づくりをすることが、研究の三つの柱です。

○認め合い、かわり合う場

かわり合う必然性をもつ課題を設定することで、相手の考えや気持ちを尊重しながら、自分の考えや気持ちを見つめ直したり、新しい考えにたどり着いたりすることができるようになると考えます。特別活動や授業においても、生徒を見取り、「この子」をいかす場面を考え、かわりの中で生徒の力を育んでいます。十月十六日に研究発表会を開催します。日々の生徒指導で育んだ、互いを認め、尊重する人間関係を礎に、授業を展開します。認め合い、かわり合う中で、互いの考えや気持ちを大切にしながら、学びを深めていく姿を目指していきます。多くの方にご参観いただき、ご指導をいただければ幸いです。

(文責・佐野由加理)

私の研究

言葉に着目して主体的に物語を読み取り、
学び合う中で想像豊かな読みができる子の育成

—2年 国語科「感じよう」しあわせな時間を『お手紙』の実践を通して—
西尾市立福地北部小学校 宮川 周

一 はじめに

本校では、国語科物語文の授業で「見つけ学習」という学習スタイルを取り入れています。本研究は、子どもたちが言葉に着目し、友達との学び合いを通して想像豊かに物語を読むことができるようになってほしいと願い、取り組んだ実践です。

二 実践

(一) 物語や人物に興味をもたせる場
ブックトークをしたり、教室に「お手紙」の作者による本を集めたコーナーを設けたり

しました。また、ペープサート用の人形を子どもたちの前に登場させ、ペープサートに興味津々な子どもたちと話し合い、学習の最後に一年生にペープサートを見せることに決めました。そのために、人物の気持ちを読み取る必要があることを共通理解しました。

(二) 一人読みの場と意見交流の場

一人読みの場では、どのような言葉に着目すると人物の気持ちが想像できるか、全員で共通理解を図りました。机間指導での対話や発言時の問い返し、称賛の声かけと認め合いを通して、言葉に着目して主体的に物語の内容を読み取り、自分

の言葉で考えを伝えられるようになりました。

(三) 全員で共通した学習問題について考え、伝え合い聴き合う場

子どもたちが授業前半の意見交流の場で特に着目した言葉をもとに、授業後半に全員で改めて人物の気持ちを考えました。友達のを考えを板書で振り返るとともに、挿絵や吹き出しの入ったワークシートを活用し、役割演技を取り入れました。そうしたことで、子どもたちは本文や友達の意見から考えを広げ、人物になりきって気持ちを豊かに想像したり表現したりすることができました。

三 おわりに

「楽しかった」「もっとやりたい」と、授業を終えたときに笑顔で話す子どもたちの姿が忘れられません。今後も目の前の子どもたちに学び、実践に励んでいきます。



役割演技をする子どもたち

豊川支部

地域とともに

― 守られ、守り、伝える ―

豊川市立三蔵子小学校



赤坂の舞台で公演する長草万歳部

本校は、豊川市のほぼ中心に位置し、周辺には新旧の住宅地や農地、工業団地があります。学級数は二十五、児童数は六六一名と、市内有数の大規模校です。多くの児童が抱えている安心感には、地域住民による防犯活動が大きく関わっています。中でも平成十五年に発足した防犯ボランティア「三防会」は、当時、全国的にもたいへん珍しい存在でした。小学一〜三年生を対象にした下校誘導や夜

間パトロールなどを実施しています。

このような学校環境のなか、本校の総合的な学習の時間では、三年生で「W安全マップ活動」（防災）、五年生で「長草万歳を受け継ごう」（伝統）を実施しています。

三年生の「W安全マップ活動」は、小学校三年生と中学校三年生がペアになって、校区内の防災や防犯、交通安全に留意する場所を探る活動です。身長差のある小・中学生が、手をつないで校外学習をする姿は、ほほえましいものです。

五年生の「長草万歳を受け継ごう」は、校区に伝わる「豊川長草御殿万歳」について調べ、謡いができるようにする活動です。さらに、三十年ほど前からはクラブ活動として、継承に努めています。子どもたちは伝統衣装に身を包み、大夫・才蔵に扮し、謡いに合わせて演じます。

昨年度は連区敬老会のほか、市指定有形民俗文化財の「赤坂の舞台」での公演にも参加しました。子どもたちは地域に守られ、子ども自身も安全に関心をもち、そして地域文化の継承に少しでも貢献しようと努めています。

（文責・西郷 好則）



学校白慢

岡崎支部

雄勝に学ぶ

岡崎市立葵中学校

葵中学校の生徒会が主催する活動の一つに、「ひまわりプロジェクト」があります。これは全国の被災地を応援する活動で、平成二十七年年度からスタートしました。

これまで、宮城県仙台市公園仮設住宅、熊本県益城中学校、福岡県杷木中学校、岡山県真備東中学校に、義援金や激励のメッセージを届けてきました。そして、その都度いただくお礼の手紙やDVDなどを通して、助け合うことの意義や、つながる喜びを生徒たちは肌で感じるようになりました。

さらに、昨年度からは、この活動を一歩前進させるために、被災地から学ぶ活動に挑戦しています。それが、石巻市の雄勝中生が演じた伊達の黒船太鼓の演奏です。

平成二十三年、三月十一日。巨大津波が雄勝の町を飲み込みました。襲いかかった深い絶望感のなか、雄勝中生は復興へ向けて、伝統ある伊達の黒船太鼓を一心不乱に叩き始めたのです。本物の太

鼓の代わりに、車の古タイヤを用意し、梱包テープで張りを作りました。ドラの音と共に勇壮に進む黒船をイメージした輪太鼓の演奏を、雄勝の町に響かせたのです。

私はこの雄勝中生から、尊い学びを得られることを確信しました。どんな苦難も乗り越えて、前へ前へと進もうとする雄勝中生の心意気。ぜひ、葵中生にも体で感じ取ってほしい。そう願いました。

昨年九月二十三日、体育大会本番。本校二年生二百二十四名は、全員で伊達の黒船太鼓を力いっぱい演奏し、参観者から万雷の拍手をもらいました。

今年も二年生全員が雄勝の心意気を学ぶため、厳しい練習に取り組んでいます。令和の空に輪太鼓の響きが炸裂します。

（文責・都筑 祐二）



輪太鼓を演奏する2年生



海の生き物を真剣にスケッチする子どもたち

地域を見つめ、学びに向かう子 —海はともだち ふるさと西浦—

蒲郡市立西浦小学校

本校の児童にとって、海は身近な存在です。しかし、最近の子どもの様子をみると、「身近なはずの海に親しむ機会が少なくなっているのでは」という心配もありました。そこで、海を通して「ふるさと西浦」の魅力を改めて感じ、より深く知ろうという実践を、総合的な学習の時間に系統的に位置づけることにしました。その一端を紹介します。

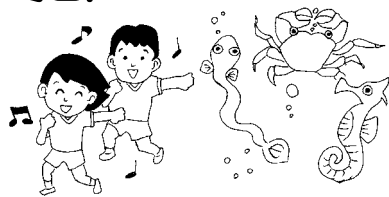
三年「ふるさと西浦発見 西浦の海で発見」では、十月下旬、西浦漁協や東三河農林水産課の方のご協力で、「海のゆ

りかごとアマモの種付け」に挑戦します。アマモ場の再生のため、アマモの種を混ぜた泥を繁殖用のマットに何十枚も塗りつけ、枠で固定し海に沈めます。その後、学習は四年生へと引き継がれます。

四年「発見！西浦の海じまん」五感で感じよう西浦の海」では、六月、自分たちで植えたアマモを、船に乗って観察します。成長したアマモの中に多彩な生き物を発見し、海のゆりかごと呼ばれる所以を実感します。そして、「環境チャレンジ活動」は、蒲郡市役所、生命の海洋科学館、竹島水族館、漁協など多くの方のご協力を得て実施します。子どもたちは、小グループに分かれ、海の中に入ったり、砂を掘ったり、岩をひっくり返したりして、海の生き物を探し回ります。まなざしは真剣そのもの。採った生き物は、大切に学校に持ち帰って丁寧にスケッチし、図鑑で名前も調べます。タツノオトシゴ、イシガニ、アナゴ、ギンボなど、多くの生き物が生息する豊かな自慢の海だと、魅力を再発見します。身近な海から改めて地域を見つめ「ふるさと西浦」に誇りと愛着をもつ子どもたちを、育んでいきたいと思っています。

(文責・星野 佳子)

支部トピックス



ライジングサン 陽はまた昇っていく —全校ダンスへの取組—

幸田町立幸田中学校

幸田町の中央に位置する本校は、生徒数六百名程の規模校です。「いつも熱くずっと熱く」生きる生徒の育成」を

教育目標に掲げ、夢を育む活動、折れない心を鍛える活動の展開を進めています。本校は、平成十六年度以来、全校で一つのことに取り組める学校を目指し、全校ダンス「島唄」に取り組んできました。先輩が後輩へとダンスを伝え、踊り続けてきました。

昨年度、二年生が学年目標「新(あらた)」の下、新しい伝統を創ろうと、「ライジングサン」という曲を使って新しいダンスに取り組みました。「ライジングサン」は平成二十三年に起きた東日本大震災の復興支援ソングとして作られました。この曲には「日本を元気に」というメッセージが込められています。ここ数年日本で起きた地震や台風などの災害によって被害を受け、心に傷を負った人たちの復興支援ソングを使ったダンスで楽しませ、元気づけたい、震災を決

して風化させない、そういった思いを込めてスタートしました。踊っている自分たちが笑顔で楽しく踊り、見ている人たちを楽しませ、元気を与えられるようなダンスを創り上げようと、リーダーたちが中心となり、オリジナルのダンスにアレンジを加え、みんなが踊れるようにダンスを創作していきました。

今年度になり、三年生として、後輩と一緒に踊れるようにダンスの指導を始めます。修学旅行では、ダンスの質をさらに高めるために、ダンサーの荒井修氏に三年生全員で指導を受けました。体育大会では、全校生徒六百名で踊る「ライジングサン」が見られるはずですが、新たな伝統として始めたダンスに込めた思い、そして踊る曲が変わろうとも、幸田中学校がずっと大切にしてきた同じ目標に向かって心一つにしていこうと、そこに思いを込めて活動し、多くの人の心を動かしていくことを忘れずに取り組む続けていきたいと思っています。

(文責・小野良琢也)



ダンサーの荒井修氏に指導を受ける3年生

教室の窓から

自分の思いをもち、願いに向かって
自ら動き出す子の育成
身近な「ひと・もの・こと」と
かわり、発信する活動を通して

田原市立泉小学校

高橋 利紀

泉小学校は、渥美半島の中央、三河湾側に位置しています。校区では、アサリを採ったり、海苔を養殖したりする漁業、キャベツや菊、大葉などを栽培する農業、酪農などが盛んです。また、地域は学校の教育活動にとっても協力的です。この魅力的で身近な「ひと・もの・こと」を対象とした調査・体験活動を十分に行い、発信する活動を取り入れた探究的な学習を展開することは、「自分の思いをもち、願いに向かって自ら動き出す子の育成」につながると思えました。特に、市民館まつりでの発信を中心に据えた、総合的な学習に取り組んでいます。

六年「ふるさと泉の魅力発信」では、地元の食材を生かした「メニュー開発」に挑戦しました。使用する食材探しでは、地元農家の協力を得て、特産の大葉やキャベツの収穫体験をさせてもらったり、採れたてを食べさせてもらったりしました。この体験や農家との対話から子どもたちは、ふるさと泉の食材のすばらしさを感じ取り、「この食材のよさを多くのの人に知ってもらいたい」という願いをもつ

ことができました。グループで話し合ったり、地域の人たちの助言を受けたりしながら、地元の素材を生かした新しいメニュー作りに取り組みました。

市民館まつりで披露した新メニュー「大葉の塩焼きそば」は大好評でした。ここで、「もっと多くの人にアピールしたい」という願いをもった子どもたちは、大葉について調べたことや大葉の塩焼きそばのレシピを載せたパンフレットを作成し、スーパーや道の駅で配布する活動を通して、自分たちの思いを伝えました。

その後、その思いは後輩達に引き継がれ、五年生が、そのよさを伝える、「ソーラン節」大葉の塩焼きそばバージョン」を作り、市民館まつりのオープニングで披露するなど、広める活動は続いています。これからも、子どもたちが地域を誇れるよう、地域の素材を生かした活動を広げていきたいと考えています。



市民館まつりで「大葉の塩焼きそば」の販売

私のコレクション

歴史に思いをはせる

碧南市立東中学校 小野田 薫

祖母の影響で幼い時から時代劇をよく観ていました。そのせいか、近所の子と遊ぶ時はいつも忍者ごっこ。親戚のおじさんにももらった「まきびし」が当時の私の宝物でした。

そんな私が歴史好きになったのは自然な流れで、一時は社会の先生になろうかと真剣に考えたぐらいです。中学生の時に『電馬がゆく』を読んで以来は、坂本龍馬や新選組の本を手当たり次第に読み、憧れの剣豪に近づくために剣道の練習にも熱が入りました。周りの子が芸能人やおしゃれの話をする中、武士道について語る中学生というのは、今考えてみると、相当風変わりな子どもだったと思います。その後、私の歴史への情熱は冷めることなく、大学生の時には、フィールドワークと称して様々な史跡や神社仏閣を訪ねるようになりました。実際に歴史上の人物が歩いた場所を歩き、思いをはせる。歴史好きな人にはわかるとは思いますが、同じ場所に自分がいいると考えるだけでわくわくしてきます。

今でこそ「歴女」や「刀剣女子」と



自宅にある本の一部

令和元年度

定期総会〔報告〕

五月十日（金） 蒲郡市民会館

五月十日（金）、令和元年度三河教育研究会定期総会・教育講演会が、約千名の会員と多くの来賓の先生方のご臨席を得て、盛大に行われました。定期総会では、まず本年度の役員が承認され、高須亮平会長を中心とした新体制が発足しました。

高須会長は、教育研究を考える中で、真の理解と実践には教師の意識改革が必要であり、そのために、三河の先輩の教えから、私たち教師は、本質を見極める眼力、自らの実践を貫く主体としての軸、ひたすら子どもを育て教育を生み出す創意をしつかりともつことが望まれますと語りかけられました。教育研究に求められることは、美しい言葉で飾り立てることでも、流行、流儀を追うことでもなく、それらを超越した、あくまで子どもたちに誠実で、地道な教育実践を継続していくことであり、それが、三河の本質につながると思われられました。

さらに、先輩方の熱き思いを次代へつなげ、さらなる充実・発展を図り、会員一同が主体性と創造性を発揮して、教育研究を展開していこうと力強く呼びかけられました。

就任のあいさつに続き、来賓を代表して、愛知県教育委員会委員の大須賀憲太様、蒲郡市長の稲葉正吉様からご祝辞をいただきました。

大須賀様からは、半世紀を超える歴史ある三河教育研究会が、学校教育の充実と発展に寄与しているとのこと、言葉をいただきました。各地域や学校の現状を見据えて、未来を担う子どもたちを育てるための研究を推進していくことへの期待のお言葉もいただきました。稲葉様からは、教育課題に対し、各地区で真摯に取り組んでいる様子を述べられるとともに、子どもの教育に情熱をもち、先駆的な研究活動に熱心に取り組んでいる会員への感謝のお言葉をいただきました。

その後、前年度の活動にご尽力いただいた前会長の水藤彰啓先生、前副会長の加藤宏基先生に感謝状を贈呈しました。

それに続き、平成三十年度の事業報告・決算報告、令和元年度の事業計画案・予算案について審議され、全ての議案が賛成多数で承認されました。

当日は、多くの皆様のご協力により、盛会裏に終えることができました。

教育講演会

演題 「資質・能力の育成と

主体的・対話的で深い学びの実現」

講師

上智大学総合人間科学部教育学科教授

奈須

正裕 氏

学習指導要領が来年から小学校で全面实施になります。今回の指導要領は、小中学校については、これまでの内容とは基本的に変化はありません。理由は、現在取り組んでいることがうまくいっていることにあります。小中学校に関する限り、日本の子どもの学力は高止まり状態です。過去十年間の全国学力テストでも、都道府県の格差は、どんどんなくなってきました。それは先生方が、地域で団結して学び合ってこられた成果だと思っています。今回の学習指導要領は、この好機に、現状よりもさらに質的に一段高めようというのが趣旨です。そのポイントが、演題にもある資質・能力です。

り算という一つのコンテンツ、一つの指導事項を数時間かけて子どもに入れていきます。テストの時も教えたものがどれだけ子どもの中に教えた通りに残っているか、その量を学力として見ます。これは、内容をどれだけ知っているかというコンテンツ・ベースの学力論です。

学力論にはもう一つあります。それが資質・能力を基盤とした、コンピテンシー・ベースの考え方です。大量の知識は、所有していること自体にも価値はありませんが、もっているものは使わないと意味がありません。存分に使って、人生をより自分らしくしようとし、仲間と一緒に支え合いながら良い社会をつくらうとして生きていく。知識はそのための武器や材料や道具なのです。コンピテンシー・ベースの学力論では、教えた知識が、子どもたちにとって生涯生きていくうえでの武器や材料や道具になっているか、そのために、使えるような質の知

識に教えてきました。例えば、分数のわ

識になっているかがとても大事です。

深い学びとは、浅くない学びのことで
す。浅い学びとは、よくわからないがそ
ういうことらしいから覚えておこうとい
うような、自分と関係のないあやふやな
認識です。そんな知識が使えるわけがあ
りません。身につけた知識は、以前学ん
だことや他の教科で学んだこと、生活
の中で見聞きしたことと意味的に関連づ
いていないと使えません。つまり、深い
学びとは、子ども自身や知識を使う状況
と関連づいている、あるいは、知識が相
互に関連づいている学びなのです。自分
と関連づいているとは、納得しているとい
うことでもあります。そうであるなら
ば、授業のやり方も変わってきます。知
識の関連づけを心理学では精緻化と言
います。深い学びは、精緻化された知識を
生み出す授業を求めているのです。

主体的・対話的で深い学びについても、
主体的にする活動や対話的にする活動を
ばらばらに考えていてもうまくいきませ
ん。しかし、深い学びにしようとすれば、
その学びは、自ら主体的になり、対話的
になっていくはずで

子どもと関連づくということは、子ど
もももっている知識と関連づくようにす
ることです。子どもはすでにいろいろな
ことを知っています。教えるということ
は、そういった子どもがもっているイン
フォーマルな知識を出発点に据え、それ

を教科の見方・考え方に沿ったフォーマ
ルな知識へと洗練させていくことだと考
えます。

知識を活用するには、その知識がこの
状況で使えるのか、使えないのかの判断
ができなければなりません。また、なぜ
使えるのか、あるいは使えないのか、そ
の理由がわかっていない必要もあります。
これが、知識を活用する状況と関連づく
ということです。そのためには、知識を
教え込んだ後に活用に進むのではなく、
最初からその知識を活用する本物の状況
(オーセンティック)で学ぶのが得策で
す。具体的には、その知識を現に使って
いる実社会・実生活の状況を基盤にし
たり、あるいは、科学する理科、文学する
国語、アートする図工のように、その教
科における探究の本来の状況を基盤にし
たりして、授業を生み出します。

知識が相互に関連づくということは、
単元や教材を超えて学びがつながってい
くことです。例えば、五年生に四年生ま
での国語の教科書を全部持ってきて、
説明文に全て丸を付けさせます。説明文
では様々な題材が取り上げられています
が、各説明文で何を学んだのかを、四年
分を何時間かけて一気に振り返るので
す。子どもは、題材のことはよく覚えて
いますが、学んだことは意外と覚えてい
ません。大切なのは、問いと答えの応答
関係、事実と意見の書き分け、順序を示

す言葉、接続詞といった読みの戦略や着
眼点です。各教材でそれらを学んできた
ことを確認し、そこに目を付けると、説
明文が良く読めることをわからせるので
す。一度、子どもたちの道具を整理する
わけです。こうして整理した道具を使っ
て、五年生の新しい説明文に挑戦すると、
子どもたちはすらすらと読むことができ
ます。道具を使うことで、より構造的に、
論理的に読めるようになるのです。

知識の関連づけで重要なのが、見方・
考え方です。教科には対象と方法があり
ますが、従来は、国語なら言葉や文や文
章、理科なら自然の事物・現象といった
具合に、対象に意識が向かいがちでした。
一方で、見方・考え方とは、その教科な
らではの対象に対する迫り方であり、そ
れを大切にしようという考え方です。見
方・考え方を意識すると、それぞれの教
科がばらばらな知識の束ではなく、一貫
性のある系統的な構造を成していること
が見えてきます。その教科ならではの対
象に対する迫り方というのは、理科であ
れば近代科学や実証主義ですし、社会科
ならば多面的・多角的に見ていくという
ことです。それをしっかりと押さえるな
ら、個々の内容を子どもたちに教えてい
くことが大事なのです。

今日は資質・能力、深い学びについて
話しましたが、新しい話はほとんどあり
ません。教科等横断的、資質・能力、汎

用的という言葉もあります。今大切な
は、教科とは何か、教科の系統とは何か
という内容研究、教科の本質研究です。
まず、このことをお願いしたいと思いま
す。それと同時にもう一つお願いしたい
のが、子どもはどんなふうに学び育ち、
どんなふうに暮らしているのかという子
ども研究です。どちらも三河の先生方は
とても得意です。

この二つをきちんと行い、二つを接合
させる中で授業をつくり、カリキュラム
をつくるということを、お願いしている
だけです。ですから、みなさんの足も
とに大切なものはいっぱい埋まっていま
す。それを掘り起こして、もう一度、み
なさんの中で咀嚼し、確実なものにして、
教育をつくり上げていただきたいと思います。



令和元年度 本部事業

生きる力を育成する三河教育

～学び合い、学び続ける教員として～

総務委員会

三河教育研究会（以下三教研と表記）は、本年度、創立五十九年目を迎えます。子どもの学びを中心に据えた教育活動を根幹におき、時代の思潮に応じた教育活動を追究してきました。それぞれの時代の要請に合わせた提言がなされ、多くの成果をあげてきました。

本年度も、主たる各部会・委員会の研修会・研究会において、魅力と実効性のある研修活動が計画されています。他にも、教育研究におけるミドルリーダーの養成を目的とした授業力養成講座を引き続き開催します。

令和の時代となりました。来年度からは新学習指導要領が完全実施されていき、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められます。学校における働き方改革を進めるなかにあっても、授業力を高め続けていくことは、教員の大きな使命であり、三教研にとっても切実な願いであります。本会の事業が学びの機会となり、各地域や各学校に広がっていくことを望んでいます。

三教研の取り組みや、各学校で実践された学習指導案を本会のホームページや広報「教育 みかわ」に多数掲載していきます。会員の皆様からの情報提供をお待ちしています。

アドレス：http://www.sankyouden.jp/

国語部会夏季研修会	8/8	蒲郡
国語部会書写実技講習会	7/26	岡崎
愛知県社会科教育研究大会	10/23	安城
算数数学部会夏季研修会	8/6	豊橋
愛知県小中学校理科教育研究発表会	8/6	幸田
愛知県生活科教育研究大会	8/6	豊田
音楽部会夏季研修会	8/2	豊田
造形部会夏季研修会	8/2	名古屋
保健体育部会夏季研修会	8/7	豊田
読書・家庭部会・小学校・家庭部会・夏季研修会	8/7	幸田
愛知県中学校技術・家庭科研究大会	11/8	西尾
事理部会・中学校・家庭科研究大会	8/8	豊橋
道徳部会夏季研修会	8/7	安城
特別活動部会夏季研修会	8/2	新城
特別支援教育部会夏季研修会	8/2	知立
養護教諭部会夏季研修会	8/2	蒲郡
総合的な学習部会夏季研修会	8/6	安城
ICT活用研究会	8/2	岡崎
愛知県学校視察研究大会	10/30	豊橋
愛知県学校図書館研究大会	8/23	名古屋
愛知県統計教育研究発表会・講演会	11/27	名古屋
愛知県生徒指導研究大会	11/12	岡崎
愛知県小中学校教員研究発表会	10/31	岡崎
愛知県小中学校教員研究発表会	11/11	南知多
授業力養成講座Ⅰ（西三河）	8/20	豊田
授業力養成講座Ⅰ（東三河）	8/21	蒲郡
授業力養成講座Ⅱ（西三河）	10/18	豊田
授業力養成講座Ⅱ（西三河）	11/12	みよし
授業力養成講座Ⅱ（西三河）	11/26	豊田
授業力養成講座Ⅱ（東三河）	10/29	蒲郡
授業力養成講座Ⅱ（東三河）	11/8	蒲郡

部会・委員会だより

道徳

豊かなかわりの中で自己を見つめ、

よりよく生きる子供を育てる道徳教育

四月十七日、三河教育研究会道徳部会第一回委員会議が附属岡崎小学校で開催され、本年度の活動内容が決定されました。本年度より「豊かなかわりの中で自己を見つめ、よりよく生きる子供を育てる道徳教育」を研究主題として、研究活動を充実していくことが確認されました。研究を進める上で、次の四項目を視点とし、委員の先生方を中心に、より深まりのある研究に取り組んでいきたいと考えています。

〈視点一〉心に響く「道徳科」の指導法の工夫

〈視点二〉共に考え、主体的に自己課題に取り組むことのできる教材の活用や開発

〈視点三〉道徳科と他の各教科等との関連を図りながら道徳性を育む工夫

〈視点四〉児童一人一人の人間的な成長を見守り、指導の改善に生かす評価

道徳部会では、昨年度、三年ごとに編集されている、道徳教育研究集録を発刊しました。この集録には、八地区の授業実践、愛知県道徳教育研究大会の記念講演、道徳ニュースを掲載しており、これ

からの道徳教育のよい指針になると思います。ぜひ、ご一読ください。

〈本年度の活動〉

◇道徳部会夏季研修会

・期日 令和元年八月七日（水）

・日程 一三時～一六時

・会場 安城市文化センター アンフォーレ

・講演 幾野大学大学院教育学研究科

・教授 島 恒生 先生

・分科会提案 浦丸 清美 先生（豊田）

・牧 みどり 先生（西尾）

・岩田 朋子 先生（田原）

・米坂 達也 先生（岡崎）

◇中部地区小学校道徳教育研究大会 石川大会

・期日 令和元年十一月二十二日（金）

・会場 小松市立今江小学校 他

・主題

「ふるさとの大地と人に学び、自己の生き方についての考えを深め、心の力を育む道徳教育の推進」

・分科会提案 手島 知美 先生（みよし）

八月七日、三年に一度の三教研夏季研修会が安城にて開催されます。豊田、西尾、田原の三地区からは小学校の実践、岡崎からは中学校の実践が提案されます。子どもたちの学び合う姿をもとに、授業について語り合う貴重な研修です。これからの道徳教育のあり方を探る機会にしたいだければ幸いです。

多くの先生方のご参加をお待ちしております。

学習情報

ネットワーク社会におけるメディアと

ヒューマンコミュニケーション

学習情報委員会は、「ネットワーク社会におけるメディアとヒューマンコミュニケーション」をテーマに研究を進めていきます。夏季研修の「ICT活用研究会」では、「自作視聴覚教材」「情報モラル育成」「ICTを活用した授業実践」等を研究対象として、実践発表、意見交換を行っています。「情報活用能力の育成」として、各地区の具体的な事例を「情報交換資料」としてまとめ、地区に還元していきます。

また本年度は、第五十一回愛知県学校視聴覚教育研究大会を、豊橋市立二川南小学校で行い、三河の学習情報教育の高い実績とその成果を発表します。本年度、この三点を活動の中心に据えて、研究を進めていきます。以下に、本年度の事業内容を紹介します。

〈本年度の事業内容〉

◇夏季研修会（ICT活用研究会）

・期 日 令和元年八月二日（金）

・会 場 岡崎市シビックセンター

・提案者

①豊川市立御油小学校

米澤 好生 先生

②豊根村立豊根中学校

佐々木裕直 先生

③岡崎市立竜南中学校

中山美奈子 先生

④安城市立祥南小学校

太田 真生 先生

⑤知立市立八ツ田小学校

山口 良 先生

◇委員会議

本年度三回開催し、本年度の活動についての確認や、地区の情報交換をします。

◇第五十一回愛知県学校視聴覚教育研究大会

・期 日 令和元年十月三十日（水）

・会 場 豊橋市立二川南小学校

学習情報部夏季研修会実施のお誘い

岡崎・額田中 鈴木 広樹

夏季研修会は、毎年各地区での先進的な実践の様子を知ることができ、たいへん有意義な会となっています。特に近年は、タブレット端末の活用とSNS普及による、現代に必要な情報モラル教育について、多くの事例が報告されています。また、質疑応答の時間を通して、他地区での実践の様子を学ぶことができ、地区の事情が分かり、参考になります。

本年度の夏季研修会は、岡崎市のシビックセンターで開催します。情報化社会の課題について苦労されている学校が多いことから、多くの先生方で、交流を深めていただきますようお願いいたします。

へき地教育

ふるさとに夢や誇りをもって、

未来の創り手となる子どもの育成

―へき地・複式・小規模学校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして―

へき地教育委員会は、本年度の研究主題を見出しのとおり設定し、その活動を充実させていきます。本年度は、県へき研第四次の研究成果をまとめるとともに、第Ⅸ次研究推進五か年計画の第一期一年次となります。愛知県で東海北陸へき地・複式・小規模学校教育研究大会が開催されるため、主に大会要項の資料編の作成を協力していくことで、さらに実りある活動にしていきたいと考えています。

① 第三十三回東海北陸へき地・複式・小規模学校教育研究大会愛知大会並びに第五十七回愛知県へき地・複式・小規模学校教育研究大会

未来の創り手となる子どもを育成する特色ある学校づくりを通して、確かな学力と豊かな心を育む学校・学校経営のあり方、特にへき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実を追究する。

② 東海北陸へき研大会要項資料編（愛知県へき地教育研究シリーズ）発行に協力し、具体的な実践事例から学ぶ。

◇第三十三回東海北陸へき地・複式・小規模学校教育研究大会愛知大会並びに第五十七回愛知県へき地・複式・小規模学校教育研究大会の開催

・期 日 令和元年十月三十一日（木）
令和元年十一月一日（金）

・全体会場 岡崎市民会館（一日目）
分散会場 豊田市立花山小学校

・南知多町立日間賀小学校・中学校
岡崎市立宮崎小学校（以上二日目）

◇県へき研会員校研究発表会の開催協力

・期 日 令和元年十月二十四日（木）

・研究校 田原市立若戸小学校

・期 日 令和元年十月二十五日（金）

・研究校 設楽町立清嶺小学校

◇東海北陸へき研大会要項資料編（愛知県へき地教育研究シリーズ）発行協力

・第Ⅷ次研究のまとめ（豊田市立花山小学校／南知多町立日間賀小学校／南知多町立日間賀中学校／岡崎市立宮崎小学校）

・第Ⅸ次研究推進計画と研究委嘱（設楽町立名倉小学校／新城市立作手中学校）

・会員校の取組（特色や現職研修）

・へき地教育振興補助事業の概要
・複式カリキュラムの調査・研究

令和元年度

三河教育研究会役員

会長

岡崎 梅園小 高須亮平

副会長

豊橋 南部中 宮崎正道

顧問

北設 青陵中 浅井英雄

幹事

西尾 西尾中 平井克明

庶務

高浜 吉浜小 加藤嘉子

会計

岡崎 竜海中 伊豫田守隆

調査

刈谷 朝日中 犬塚清隆

会

豊川 南部中 山本泰弘

計

岡崎 竜南中 中野渡善樹

愛教大

愛教大 附属岡崎小 鈴木佳樹

愛教大

愛教大 附属特別支援 加藤嘉子

愛教大

愛教大 附属特別支援 山本泰弘

愛教大

愛教大 附属岡崎中 高井規行

愛教大

愛教大 附属岡崎中 森卓也

評議員

(部長)

国語 刈谷 刈谷東中 澤田佳子
社会 豊田 浄水中 萩原孝
算数 豊橋 牟呂小 久野哲司

(支部長)

豊橋 前芝小 石川壯久
豊川 国府小 山本茂樹
蒲郡 蒲郡北部小 壁谷香住
新城市 舟着小 伊藤智明
北設 清嶺小 後藤康仁
岡崎 葵中 都筑祐一
碧南 西端中 角谷和彦
刈谷 住吉小 鈴木竹久
豊田 益富中 深津幸春
安城 安城南小 久永克彦
西尾 三和小 宮川昇

常任委員

知立 猿渡小 三浦啓作
高浜 港小 神谷理
みよし 中 水野克弘
幸田 深溝小 壁谷雅道

総務委員会

委員長 豊橋 青陵中 浅井英雄
副委員長 愛教大 附属岡崎中 鈴木佳樹
委員 安城 今池小 加藤雅彦
委員 西尾 横須賀小 高須友悟
委員 刈谷 一宮中 近藤裕

(各種研究委員会委員長)

学習情報 岡崎 羽根小 小田哲也
学校図書館 岡崎 高松小 河合寛則
統計教育 岡崎 矢作西小 深津伸夫
生徒指導 岡崎 六ツ美中 中垣明道
へき地教育 北設 豊根中 大谷知二

広報委員会

委員長 北設 東栄中 岡田守
副委員長 愛教大 附属特別支援 川原三佳
委員 蒲郡 塩津小 稲吉久美子
委員 岡崎 北部中 小山任代
委員 幸田 北設 幸田千典

調査委員会

委員長 豊橋 南部中 宮崎正道
副委員長 豊橋 花田小 佐藤淑乃
委員 豊田 五ヶ丘東小 加藤嘉一
委員 豊橋 附属岡崎小 神戸勝一
委員 刈谷 小垣江東小 中本幸志
委員 愛教大 附属岡崎小 高井規行
委員 愛教大 附属岡崎小 野村勝美

教育随想 (85)

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会と進化してきた過程において、社会の多様化が進んできました。経済状態一つをとっても、今日、深刻な貧困問題が存在します。この意味において多様は格差と言い換えることもできます。加えて、考え方や価値観の違い、障がいの有無、多国籍化やLGBT等々を含めて、正に現代は多様性の時代です。

学校は社会を映す鏡であり、地域の縮図です。故に学校も同様にいろいろな子どもが在籍しています。それ故、年々私たちの子ども一人一人への配慮すべきことが増えてきています。給食でのアレルギー対応に神経を遣うことはその一例です。また、同時に

さまざまな考え方の保護者への丁寧な対応も求められています。こういったことが、私たちの多忙化に拍車をかけているのだと思います。

教育の目指すところは「生きる力」を身に付けさせることです。そして、学校はそのために存在します。学習指導要領がどう変わろうとも、基本的に「生きる

能力より意欲が人生を形づくる



高浜市教育委員会 教育長
都 築 公 人

力」を育むことが私たちに課せられた使命です。「生きる力」は「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の三要素です。このことは、時代がどう変わろうとも教育の不易なところだと思っています。ただ、その内容については、時代の要請とともに変わっていくかなければならないと実感しています。「詰め込みだ」いや「ゆ

個々の成長はおぼつきません。そればかりか、一番大切な意欲さえも失わせてしまいます。私たちの仕事の一番大切なことは、子どもをその気にさせることです。その気になった子は、自分の力でさまざまなことを吸収し、自ら学びながら成長していきます。だからこそ、その気にさせるための方法や手段を考え実践しなければなりません。例えば、能力も習熟度も違う子どもたちに、十把一絡げの一律な宿題を課するのは考えものです。学級に四十人いれば四十通りの課題があるのが理想ですが、せめて量や質を含めて三段階くらいの課題を提示し、子ども自身に納得させて選べるのがよいと思います。日々の授業でも大勢の中での能力差を考えて、どの子にも解決できそうな課題を準備し、自ら学ばせる工夫

とりだ」と言っていた「何を教える」時代から「何を学ぶ」かへの転換。これからは、近い将来到来するAIやIoTに囲まれたSociety5.0を生き抜くために『有能な駒』ではなく『賢い指し手』を育てることが期待されているのです。家庭環境も能力も性格も違う多様な子どもたちに画一的な指導をしていては、

をすることが、一人一人をその気にさせることにつながります。さらに、授業も含め学校生活のあらゆる場面で肯定的に捉え、認め、勇気づける励ましの言葉掛けこそが、予測困難な未来を生きる今の子どもたちに必要なことではないでしょうか。『能力より意欲が人生を形づくる』この言葉が、私は大好きです。

編集後記

「令和」の時代が始まりました。新しい時代を担う子どもたちには、その子なりの夢や目標をもち、瞳を輝かせてさまざまな経験を積んでほしいと思います。そんな折、最先端のメンタルトレーニングや、自己決定・自己選択を取り上げた記事に目がとまりました。夢を実現させる第一歩目の「短期目標」は、「現状プラス十パーセント」が理想的だそうです。高すぎず、低すぎず、「もつとやりたい」と思えるちょうどよい高さの目標を設定し、昨日よりほんの少し高いところを目指すこと。この小さな努力の積み重ねが、子どもの「主体的・対話的で深い学び」につながっていくように感じられました。

さて、今夏も各部会・委員会では、魅力と実効性のある研修会や研究会が開催されます。三河各地の子どもたちの輝く姿に触れ、実践と研究について語り合いましょう。

ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

◆表紙の写真◆

「トライを目指して」

撮影 豊田市立下山中学校

中倉 航 先生

◆カット◆

愛知教育大学附属特別支援学校

児嶋 佑紀 先生